

認定NPO法人 北海道自由が丘学園・ともに人間教育をすすめる会

(振込先:郵便局 02790-6-9847 北海道自由が丘学園をつくる会)

〒062-0051 札幌市豊平区月寒東1条15丁目5-11 TEL(011)858-1711 FAX(011)858-1333

URL <http://www.hokjioka.net> E-mail : codmokan@agate.plala.or.jp

支援会員・寄金 3,000円 (年額)
*会員には、本誌を配布します。



《写真説明》

<9月9日・長沼集会>
商店街で第1回説明会/
地元・千歳・恵庭・由仁・栗山
や当別・札幌からも参加
下段:コーラス「木いちご」
10周年コンサートin自由が丘

INDEX

- P1: 巻頭言
- P2: ヒューマンラスト 会費・集会
- p3: ↓ / 小学校設立運動
- p4-5: 認可申請の取り組み
- p6: フェスタ集会報告
- p7: スクール食育レポート
- p8: エッセー、カンパニー、後記
[普及チラシなど]

教育の民主的営み、私達の教育観

～本物に触れる、自ら取り組む、学校設立運動の意義～

認定NPO法人・代表理事 吉野 正敏

エピソードから:北海道うたごえ70周年祭典・合唱構成劇「真実の人間」をスクール引率～戦時下、ソ連船が難破し救助するか思案する中、海辺から赤子の泣き声・村の女は抱き寄せ授乳。その姿を「これが真実の人間だ」とアイヌ/猟師は子どもにいった～後日、スクール授業で取り上げたところ、生徒達は、「難しいが・もとは同じ人間、・人間らしく生きること・(真実の)人間とは何かを考えることが大事」との感想。また音楽や演劇に直に触れ、その迫力や盛り上がり、を、「素晴らしい」「大ホール演奏はすごい」「きれいな声、大きい声に驚いた」「演劇に興味」と率直に感じてくれた。

自由が丘は予てより体験総合型学習を重視していますが、とりわけ様々な実物・本物に接する芸術的機会はインパクトも直裁多岐であり、これをスクールの教育活動につなげていけるかはスタッフの課題でもあります。これらは、単なる座学/知識暗記型学力とは異なり、子ども達の多様で豊かな感(受)性の喚起、体験/経験を次の造形・創造に導く動機、事物の認識力・構想力・柔軟性などの奥行きとなっていくであろうと期待されます。(大きな建築物も広い土台があってこそです)

幼児、初等年齢からカリキュラムの柱に位置づけたいことでは、「沈黙の春」を著したレイチェル・カーソンがそれらを「センス オブ ワンダー」と表現しました(自然との出会い/海・波・生物・)。子ども達それぞれの関心に基き、とことん集中して取り組むことを尊重する、それを大人スタッフがサポートする仕組みは、まさに子ども達が主役=主体者の学び舎となります。

私達が今日指している『新しい小学校』設立運動も、(1)子ども達が学び成長する主権者であることと、(2)市民/父母・住民・教育関係者等が対等・協同(組合)的に学校を創り担う、という教育における民主主義=2つの柱を実現していくものです。皆さんと共に進めていきましょう。